

科目名	医療・科学・暮らし					
英文名	Medical Care, Science and Daily Life					
担当者	浅居 正充・宮下 尚之・永岡 隆・三上 勝大・豊田 航・澤井 徹					
開講学科	生物工学科					
単 位	2単位	開講年次	1年次	開講期	前期	必修選択の別：選択科目
科目区分	基礎科目					
備 考	【開講曜日・時限】水曜4限					

■授業概要

健康や病気そして食と暮らしの安全など、人間生活の質の維持と向上に関する課題に強い関心がよせられている。本講では、現代社会・未来社会を支える研究者・技術者に必要な科学的教養の獲得を目的に以下の講義を行う。

（三上勝大）ヒポクラテス時代の医術から現代医療への変遷に科学の成果が果たした役割は極めて大きい。人体の構造とその機能についてとりあげ、現代医療を支えている科学技術および医療機器開発、そして今日の日本を支える医療制度について概説する。

（宮下尚之・浅居正充・永岡隆）医療や暮らしを支えるコンピュータ・エレクトロニクス技術に関する話題をとりあげ、生命科学、生体情報処理、生物の仕組みとの関わりや応用につき概説する。

（澤井徹）私たちの暮らしの中で必要なエネルギーと地球環境問題への対応について概説する。住環境の快適性と健康、家庭部門におけるライフサイクルエネルギー評価に基づく省エネルギー、地域バイオマス資源による家庭部門の暖房エネルギー供給を考える。

（豊田航）質の高い人間生活とは何かを考察し、それを実現する医療・福祉機器について、例えば障がい克服して充実した生活を実現する福祉用具・ウェルネス機器などの教材をもとにヒューマンマシンシステムの観点から概説する。

■授業形態

対面授業（全授業回）

■アクティブ・ラーニングの要素

該当なし

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

-

■使用言語

日本語

■学修到達目標

- ・医療機器の役割や意義、それを支える技術開発および取り巻く環境について理解ができること。
- ・コンピュータ・エレクトロニクス技術の生命科学との関わりや応用が理解できること。
- ・住環境の快適性と健康に関係する温熱環境、家庭部門におけるライフサイクルエネルギーの考え方が理解できること。
- ・ロボットをはじめとする人間と機械の共存を目指した21世紀社会において、福祉や介護の分野では現状どのような機器システムが開発されているのか、その代表例を知ることによって人間と機械のインターフェースの重要性を理解すること。

■ディプロマポリシーとの関連

この科目の修得は、近畿大学の教養教育の目的1の達成に関与している。

■成績評価方法および基準

レポート 100%

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポートの内容に基づいて、それに応じた指導を行う

■教科書

【留意事項】適宜資料を配付する。

■参考文献

【留意事項】特に指定しない。

■関連科目

特になし。

■授業評価アンケート実施方法

大学実施規程に準拠して行います。

■研究室・メールアドレス

三上研究室（東1号館3階312）： kmikami@waka.kindai.ac.jp

宮下研究室（東1号館2階217）： miya@waka.kindai.ac.jp

浅居研究室（東1号館3階313）： asai@waka.kindai.ac.jp

永岡研究室（東1号館2階202）： nagaoka@waka.kindai.ac.jp

豊田研究室（西1号館1階152）： toyoda_w@waka.kindai.ac.jp

澤井 徹 （2号館講師控室）： sawai@mech.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

浅居正充 水曜5限と月曜1限

永岡 隆 木曜5限(事前にメールで予約してください)

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

第1回 医療機器の開発環境（授業形式：講義 担当：三上 勝大）

予習内容：医療機器の定義について予習すること。

予習時間：120分

復習内容：医療機器に携わる職種について整理し、復習すること。

復習時間：120分

医療機器の開発や運用・管理に関する職種や業務について講義を行います。

第2回 人体の構造と医療機器（授業形式：講義 担当：三上 勝大）

予習内容：呼吸系・代謝系・循環器系の各定義について予習すること。

予習時間：120分

復習内容：人体の構造を整理し、機能代行を行う医療機器について復習すること。

復習時間：120分

人体の構造と医療機器について臨床で活用される機器を例に解説を行い、講義を行います。

第3回 医療機器開発の具体事例（授業形式：講義 担当：三上 勝大）

予習内容：レントゲンおよびパルスオキシメータについて調べておくこと。

予習時間：120分

復習内容：生体の光学特性を整理し、機器開発への活用例を復習すること。

復習時間：120分

臨床で活用される医療機器の開発経緯や最先端の開発技術について講義を行います。

第4回 医療機器の開発と認可・承認（授業形式：講義 担当：三上 勝大）

予習内容：医療機器のクラス分類について調べておくこと。

予習時間：120分

復習内容：医療機器開発に必要な過程について講義を振り返り、復習すること。

復習時間：120分

医療機器の開発から臨床現場へ導出に至るまでの制度について講義を行います。

第5回 生命科学与コンピュータ（授業形式：講義、担当：宮下 尚之）

予習内容：スーパーコンピュータや分子シミュレーションの概要について書籍やインターネットで調べる。

予習時間：150分

復習内容：スーパーコンピュータ・たんぱく質と医療・生活との関わりについて考察する。

復習時間：90分

スーパーコンピュータに関する基礎知識とそれをを用いた生体分子シミュレーションの話題について、疾患の分子機構や薬剤開発などの具体例をあげて講義する。

第6回 生命に学ぶ、"光"をあやつる技術（授業形式：講義、担当：浅居 正充）

予習内容：電磁波に関する物理につきインターネット等で調べておく。

予習時間：150分

復習内容：メタマテリアル、構造的発色につき概説できるよう講義内容を復習する。

復習時間：90分

光のふるまいに特殊な影響を与える微細構造 "メタマテリアル" に関する研究につき概説する。また、関連分野である " 構造的発色 " の研究についても紹介する。

第7回 画像の医学への応用 -人工知能によるメラノーマ診断の実現に向けて-（授業形式：講義、担当：永岡 隆）

予習内容：メラノーマ、人工知能についてインターネット上の情報源に当り、その概略を把握する。

予習時間：150分

復習内容：人工知能を用いたメラノーマ診断の流れを、自分の言葉で説明できるように、講義内容を復習する。

復習時間：90分

ホクログのがんであるメラノーマは、進行した病変の予後は悪い一方、早期に見つけることができればほぼ完治できる疾病です。しかしながら、定量的に診断する手法はいまだ確立しておらず、医師の主観に委ねています。そこで、現在開発が進められている、人工知能を用いたメラノーマの定量的かつ高精度な画像診断法について説明します。

第8回 住空間の快適性と健康（授業形式：講義 担当：澤井 徹）

予習内容：湿度について事前に調べておくこと。

予習時間：120分

復習内容：住空間の快適性や健康に影響する種々指標について説明できるようにする。

復習時間：120分

住空間の快適性と健康に関係する空気環境と温熱環境について概説する。温熱環境では、湿度の定義、露点温度、不快指数、暑さ指数等の快適性の指標について説明する。

第9回 家庭生活のライフサイクルエネルギー（授業形式：講義 担当：澤井 徹）

予習内容：ライフサイクルアセスメントについて事前に調べておくこと。

予習時間：120分

復習内容：家庭生活のライフサイクルエネルギーに基づく省エネルギー対策について説明できるようにする。

復習時間：120分

家庭生活のライフサイクルエネルギーについて概説する。具体的には、SDGsとライフサイクルアセスメントの考え方の要点、衣・食・住生活・自動車における間接エネルギーと直接エネルギーに基づく省エネルギー対策について講義する。

第10回 家庭部門の暖房・給湯エネルギー（授業形式：講義 担当：澤井 徹）

予習内容：ヒートポンプに調べておくこと。

予習時間：120分

復習内容：暖房エネルギーのシステムの種類とそれぞれのCO2排出量について説明できるようにする。

復習時間：120分

家庭部門における種々の暖房・給湯エネルギーシステムにおけるCO2排出量とコスト評価方法について概説する。

第11回 地域バイオマス資源のエネルギー利用（授業形式：講義 担当：澤井 徹）

予習内容：バイオマス資源について事前に調べておくこと。

予習時間：120分

復習内容：バイオマスの種類と分類、デGREEデーによる暖房エネルギーの需要推定について説明できるようにする。

復習時間：120分

地域内の家庭用暖房エネルギーとして地域バイオマス資源の利用を概説する。具体的には、廃棄系バイオマスの供給量に対する暖房エネルギー需要量の推定から、地域内の暖房エネルギー自給について考察する。

第12回 ヒューマン・マシーンシステム（授業形式：講義 担当：豊田 航）

予習内容：ヒューマン・マシーンシステムの代表例を事前に調べておくこと。

予習時間：150分

復習内容：ヒューマン・マシーンシステムについて概説できるよう復習すること。

復習時間：90分

人間と機械が一体となって作業を遂行するシステムのモデルと開発・製品事例を説明する。

第13回 ヒューマン・モデル（授業形式：講義 担当：豊田 航）

予習内容：ヒューマン・モデルの代表例を事前に調べておくこと。

予習時間：150分

復習内容：ヒューマン・モデルについて概説できるよう復習すること。

復習時間：90分

ヒューマン・マシーン・システムの開発に関わるヒューマンモデルについて解説する。

第14回 バリアフリー、ユニバーサルデザイン（授業形式：講義 担当：豊田 航）

予習内容：バリアフリー、ユニバーサルデザインの代表例を事前に調べておくこと。

予習時間：150分

復習内容：バリアフリー、ユニバーサルデザインについて概説できるよう復習すること。

復習時間：90分

私たちの生活を豊かにし、参加の機会を推進する方策としてのバリアフリー、ユニバーサルデザインを事例を用いて解説する。

第15回 福祉機器と事故、ヒューマンエラー（授業形式：講義 担当：豊田 航）

予習内容：福祉機器の事故とヒューマンエラーについて事前に調べておくこと。

予習時間：150分

復習内容：事故モデルとヒューマンエラーについて概説できるよう復習すること。

復習時間：90分

事故モデルとヒューマンエラーについて概説し、福祉機器における事故分析について解説する。

■ホームページ

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業